

高松市立栗林小学校 体力向上プラン

【学校教育目標】

よく学び よく遊び よく働く 子どもを育てる

「確かな学力の定着」「健やかな心と体の育成」「心の豊かさの実践」

【目標】

- 運動が好きと答える子どもの割合を、R2年度までに85%にする。
- 体を動かすことの楽しさを味わい、習慣として運動する子どもを育成する。

【取組み】

なわとび活動

縄跳び検定カードを配布し、年間を通して縄跳び運動に取り組む。さらに、11・12月には「なわとび強化月間」を設定し、各学年に応じた合格ラインを達成した児童に賞状を渡して、児童の意欲を高める。



体育館・屋上・テラス・中庭等の開放

体育館や屋上や3階テラスを開放して運動を行えるようにしている。安全面の配慮として、教員が必ずつく、かつ屋上での運動を縄跳びのみとしている。

また、中庭には、鉄棒を設置し低学年が運動できるようにしている。



体力向上プロジェクト

始業前の時間を利用し、週2回委員会の子どもたちが考えた運動（今年度は投の運動）を行い、楽しみながら体力の向上を図る。学年ごとに場や距離を変え、キャッチボールを行っている。そして1・2ヶ月に一度、キャッチボールに5回以上参加した児童を対象にドッジボール大会を実施し、意欲の継続を図る。

体育備品・クラス配当品の充実

ボールに恐怖感がある児童も楽しめるように、どのクラスにソフトドッジボールを配当している。また外遊びを芝生でする際の目印になるように、マーカーコーンをクラス配当とした。

フラフープ、一輪車、竹馬、バスケットゴール等を購入し、児童が様々な運動に休み時間に取り組めるようにした。

【現状】

新校舎建設により、運動場ができた。数年ぶりにできた運動場では児童が楽しそうに体を動かしている様子が見られる。しかしながら1000人以上の規模に対して運動場の面積は狭く、グラウンドでは全員が一度に遊べるスペースはない。

体育の授業においては、学級数の関係で体育館等は4年生以下は2クラスで使用することとなっている。運動場は2クラスか3クラス同時に使用する。そのため同じ単元を行うとしたら、体育備品・消耗品が2倍必要となってくる。

【本校の課題】

- 全ての学年において、男女ともにソフトボール投げ、立ち幅跳びの記録が県の平均を下回っている。
- 昨年度3月にグラウンドが使用できるようになったため、運動習慣がついていない児童が多い。
→体育の授業以外でも、体を動かす楽しさ、「できた」という自分の技能の伸びを味わわせる必要がある。
また日常的に運動に取り組む習慣を付ける必要がある。